

令和7年度 府立峰山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）公開資料

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>【スクール・ミッション】</p> <p>機械創造科・普通科を設置する高校として、大学や地域の関係機関との連携を深め、郷土を愛する心と質の高い学力、グローバルな世界で活躍できる国際感覚を身に付けることによって、創造力豊かに社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>【スクール・ポリシー】</p> <p>○真理を求める力 「学びを究め、個人と社会の幸福を考え、実現する力の育成」</p> <p>○変化する力 「自ら成長し、互いに反応し、高め合う力の育成」</p> <p>○織り成す力 「一人一人の個性を認め合い、経緯に交わり、未来社会を創造する力の育成」</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 教職員の働き方改革 <ul style="list-style-type: none"> ① 下校時刻の繰り上げ等による時間外勤務時間の縮減（前年度比6%減） ■ 生徒の主体的な学びと成長 <ul style="list-style-type: none"> ② ストリート・カフェの整備と活用による効果的な仲間づくり ③ いさなご探究や課題研究等の地域連携の継続発展 ④ 学習活動の充実と良好な進路実績の継続 ⑤ 1、2年生次対象の進路指導の充実 ⑥ 教職員と生徒会の協議による校則の見直しと実施 ■ 教育環境の整備・改善 <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 学校DXの推進に向けた設備整備と普通科・工業科協働による新教科の教材開発 ⑧ 校内への送迎車両乗り入れ許可による通学環境の整備・改善 ⑨ 同時双方向遠隔授業の実施に向けた体制整備と実施 ■ 情報発信と広報活動 <ul style="list-style-type: none"> ⑩ 生徒募集に向けた効果的な諸取組の展開 ⑪ さくら連絡網を活用した保護者等への広報誌の定期的な発行と連絡事項の周知 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教職員の指導力向上と組織的な指導体制の充実による、学力向上と希望進路実現 ② 教室環境や自習空間等の施設・設備の改善による学習環境の充実 ③ 学校設定教科「STEAM探究」の推進による新たな学びの創造 ④ 高大連携による探究活動の深化 ⑤ 部活動活性化に向けた施設・設備の整備 ⑥ 生徒募集に向けた効果的な広報活動の展開（HPの適時更新、SNSの活用） 	<p>1 質の高い学力を備え、社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教職員の授業力向上に向けた研修の推進 ・タブレット端末を活用した個別最適な学習法の研究 ・系統的なキャリア教育の深化による希望進路実現 ・多様な生徒の主体的な学習を支援する魅力ある学校施設設備の整備 <p>2 高大連携や地域連携等を通して、いさなご探究や課題研究などの充実を図り、STEAM教育の手法を用いて、新たな価値を創造する力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科と機械創造科連携の教科「STEAM 探究」による新たな学びの創造 ・いさなご探究や課題研究充実のための地域連携の深化と高大連携の推進 ・探究活動など様々な教育活動の発表に向けた峰高展の深化 <p>3 充実した学校行事等を通して豊かな人間関係を築き、互いに高め合いながら、地域や国際社会で幅広く活躍できる力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事の一層の充実と、部活動・ボランティア活動の活性化 ・生徒と協働した校則等の見直しによる生徒主体性と責任感の育成 ・良好な人間関係構築に向けた支援体制の充実

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価	成 果 と 課 題
組織・運営	○教職員の意識改革による働き方改革の推進	○ICT活用などによる情報共有の効率化、会議等の内容や進め方見直しを図り、時間外勤務時間を減らす。【前年度比10%減】 ○教職員が「働きがい」を感じられるよう、支え合う教職員集団づくり、高い裁量度のある集団づくりを目指す。 ○下校時間を意識した部活動の効率化を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期である4月、5月の時間外勤務時間は、4月で前年度比7%減、5月で前年度比17%減となっている。 ・その他の月においても、2~13%減少しており、通年平均で5%減となっている。 ・DXハイスクール事業による設備充実を進めている。
	○教育環境や職場環境の更なる充実	○生徒の居場所づくり、自学自習スペースを創出する。 ○STEAM教育が推進できる教育環境を充実させる。	B	
	○中学生等への計画的な広報活動	○ホームページ、説明会等を効果的に活用し、本校の行事や取組、特色などを幅広く広報する。探究活動についても積極的にホームページ等で情報発信していく。 ○広報の効果を定量的に把握する方法、工夫を検討し、より効果的な広報活動を推進する。	A	
学習指導・進路指導	○主体的に学習できる生徒の育成	○各教科・学年と連携して、計画性のある自主学習を推進する。【自主学習時間 各学年1日平均2時間以上】 ○各学年・分掌との連携を十分に行い、希望進路の実現に向けて生徒の主体的な行動を促す。 【国公立大学合格者延べ40名以上、就職内定率100%】	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率100%は達成、進学については継続指導中である。 ・自主学習時間調査の結果、1年生131分、2年生119分、3年生177時間となり、自主学習の推進を概ね達成できた。 ・「STEAM探究」の授業計画を修正しながら、最適なものになるように調整していく。
	○STEAM教育の推進	○学校設定教科「STEAM探究」初年度として、機械創造科と普通科が連携した学びを創造し、次年度以降につながるカリキュラムとなるよう改善していく。	A	
生徒指導・特別活動	○規範意識の向上	○普段の学校生活において身だしなみ（頭髪・服装）を整え、落ち着いた学習環境をつくる。 ○儀礼的行事をはじめ、TPOに応じて主体的に判断し正装できる習慣を身につける。 ○貴重品管理をはじめとする危機管理意識の向上に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪、服装に関しては日々の声かけを継続する中で繰り返し指導の対象となる生徒もいるが、比較的落ち着いている。授業環境も落ち着いた状況の中、学習を進めることができた。 ・生徒会が中心となり、儀礼的行事での正装をはじめ、その他の行事においても方針を伝えるなど主体的に活動することができた。 ・貴重品管理については各担任の声かけを始めとして一定身についているが、忘れ物や落とし物が多く、生徒会発行の落とし物ニュースでも所有者が現れないことも多く自己管理意識としては低い状態である。自己管理能力の向上をより強く訴えていく必要がある。
	○生徒の自主的な活動の活性化	○部活動加入率と定着率を向上させるとともに、学習との両立ができる環境を作る。 ○行事や校則・規定に対して生徒会が中心となり、主体的に考え、行動できるよう支援する。	A	

健康安全・教育相談	○健やかな心身の育成と環境づくり	○生徒保健委員を中心に、健康・環境美化・食育の分野において、生徒主体の取り組みを推進する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会主体でクリーンプロジェクトを年4回実施できた。その他、CO2モニターの設置やゴミ出しのルール・マナーについても活動した。食育だよりを発行し食に対する意識の向上に努めた。 ・スクールカウンセラーだよりや教室掲示により、アプリでの予約申込を促す工夫が功を奏し、気軽に相談できる雰囲気が形成され、相談件数は昨年度の4倍となった。
	○教育相談の充実	○相談予約アプリを周知・活用し、生徒・保護者・教職員が教育相談を受けられる環境づくりを促進する。			
家庭連携・地域連携	○教育活動等の保護者等への情報発信の充実	○ホームページや広報誌、さくら連絡網を有効に活用し、保護者等との連携を密にする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・さくら連絡網の利用は保護者に定着しつつあり、情報の受発信に係る負担が軽減された。ホームページについては、更新頻度をさらに増やす必要がある。 ・探究活動の中で地域と連携した取組を行っている。大学との連携も必要に応じて行っている。 ・小学校向けの出前授業、来校型授業では、高校生が指導者役となり、延べ173名の児童がプログラミング教育を体験した。
	○大学や地域の関係機関及び地域の方々等と連携した教育活動の充実	○探究活動や課題研究において、出前授業や他校や大学・企業などと連携した取り組みの拡充を図る。	A		
人権教育	○教職員・生徒の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○人権をテーマとした教職員研修を実施し、人権意識の向上を図る。 ○すべての教育活動を通じて、生徒の自尊感情を高め、他人の人権を尊重する態度を涵養する。 ○生徒が相互に人権を尊重する意識を涵養する。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する研修については、計画通りに実施することができた。 ・SNS上での人権侵害につながるような事象やトラブルが起こらないよう、ネットリテラシーについてより詳しく学習する必要がある。
			B		

評価 A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の居場所づくりは、大人の責任としてしっかりと作っていくべきものだが、その居場所つくりを学校の中で進め、プラットフォームとしての学校づくりをしていることは高く評価できる。 ・小中高の連携をより進めることで、充実した学習活動・特別活動や、進路変更等防止の取組につなげて欲しい。 ・自分たちで考え、校則、ルールを変えていく、という生徒会の動き、民主主義を体験させることは素晴らしい。このような活発な生徒会活動、生徒たちが主体的に考えやりたいと思うことを実施できる環境づくりを、今後も続けて欲しい。また先輩のそんな姿を見て後輩が学ぶことで、峰山高校の良き伝統を、今後も引き継いでほしい。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・DXハイスクール事業による設備充実をはじめ、生徒の活発な学び、生徒の居場所づくりにつながる施設設備の拡充に努める。 ・ホームページのみにとどまらず、SNSを使ったさらなる広報の充実を図る。 ・SNSの使い方では、被害者にも加害者にもならないリテラシー教育を、教科指導、特別活動の中で進めていく。 ・小中学校への出前授業や来校型授業をはじめ、小学校・中学校とのさらなる連携を進め、開かれた学校となるよう、また地域創生に資する教育活動となるよう、今後も地域とのつながりを深めていく。
---------------	---